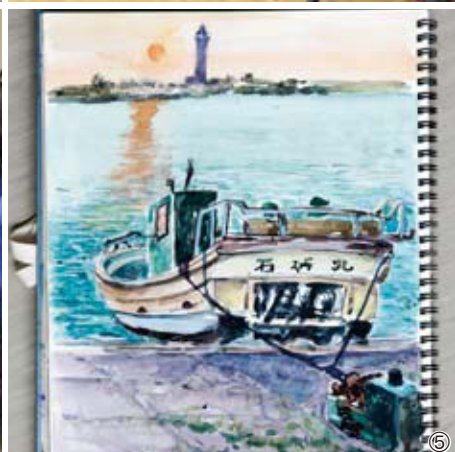


広告

石狩暮らし

市民の“十人十色”な暮らしを、ご紹介します。



- ①「水彩画は水の魔術とも言うべき芸術。その水彩画展を、水の風景が美しい厚田で開くことに意義がある」と話す大黒利勝さん。
- ②第1回の審査会の様子。道内外120人から応募がありました。
- ③第1回の展覧会会場にて。入場者が選ぶ「特別賞」は今年もあります。
- ④週1回、厚田中学校で美術の授業を受け持つ大黒さん。生徒たちも展覧会を支えるスタッフであり、手伝いながら高いレベルの作品に触れ、感性を高めています。
- ⑤「水彩画は、自分で感じた瞬間的な感動をすぐに形にすることができるのが魅力です」と大黒さん。写真は、大黒さんが描いた「石狩灯台」。だいたい2時間くらいで一気に仕上げるのだとか。

水彩画を描く人々の登竜門に 厚田アリアレール

厚田スポーツセンターで7月27日(日)から15日間、「北の海 厚田アリアレール第2回水彩画展」が開催されます。

作品募集の締切を3週間後に控え、審査員の一人である大黒利勝さん(75)は「今が一番ドキドキする」と苦笑しました。「第1回は157点もの応募があったから今回はどれくらい集まるか」。自然に期待も高まります。

大黒さんは28年間、中学校で美術教諭を務めた後、「山形出身の妻が日本海を望みながら暮らしたいと希望して」厚田に移り住みました。

大黒さんが厚田の人々に「水彩画展をやろう」と声をかけ始めたのは8年ほど前から。なぜ水彩画なのかといえば、一番の理由は水彩画に特化した展覧会が道内にはほとんどなかったため

した。「厚田の展覧会を、水彩画を描く人々の登竜門にしたい」。大黒さんの目指すところです。

平成24年に第1回を開催。結果は大成功。道内はもちろん、東京都や愛媛県、友好都市の石川県輪島市からも応募があり、厳正な審査の下、26点を選びました。その作品たちを前に、大黒さんの感情は高ぶります。「いよいよ厚田から水彩画の文化が広がっていくんだ!」

展覧会を訪れた人々の様子も忘れられません。「大人も子どもも『これ、本当に水彩で描いたの?』って驚くんです。いい作品を間近に見てもらえて本当に良かった」

誰もが経験のある水彩画。だからこそ「ここまで表現できるんだ」という驚きが厚田アリアレールにはあります。ぜひこの機会に、素晴らしい作品の数々をご覧ください。

北の海 厚田アリアレール
第2回水彩画展

「北の海の四季が織りなす豊かな風景・風物・風土、そこに住む人々の暮らしや未来に残したい光景など、後世にその素晴らしさを伝える作品」を公募し、3人の審査員の厳密な審査の下、大賞を受賞した作品をはじめ優れた作品を展示します。

日時 7/27(日)～8/10(日)
10:00～17:00

場所 厚田スポーツセンター
(厚田区厚田106-17)

費用 高校生以上300円
(中学生以下無料)

問合せ 厚田アリアレール
実行委員会事務局
(厚田支所地域振興課内) ☎78-2012